

経営と暮らしのあらかると

災害対策

第9回 アウトドアショップは防災グッズの宝庫

自然環境と 災害状況下の共通点

災害と山野・河川・海原など

しかし防災・減災能力の底上げという観点からすると、身近にあるもので対応力を上げることも重要です。専門の用具を防災の専門業者から購入しなくても、身の回りにあるものや町にあるショップで買えるもので代用しておけばよいでしょう。そこで、趣味で利用される方も多い町のアウトドアショップがお勧めです。実際にのぞいてみると、防災グッズとして代用可能なさまざまなグッズが、専門用具よりも安価にそろえられることに気付かれることでしょう。

身近なグッズの代用

筆者が実際に防災・減災・危機管理などの訓練や指導にあたる際には、心肺蘇生の人工呼吸に用いる「バグマスク」という医療用具や簡易担架などの救助用具、がれきの下敷きになったドアが開かなくなったりしたときに使うボールなどを紹介しています。また筆者自身の防災グッズとしても自宅に備えています。

今回は、各地に甚大な被害をもたらした台風18号と、先人の災害に関する教訓・警鐘が込められた地名に関してまとめました。今回は、災害時に備えてそろえておきたい職場と家庭の防災グッズについてまとめます。

東日本大震災ではガソリンが不足したりペットボトルの水がスーパーで売り切れたりしましたが、カセットコンロ用のボンベは比較的手しやしやすい状況でした。災害時に備えてカセットコンロとガスボンベの備蓄は良さそうです。またろうそくの代わりに使えるランタン(火災予防の観点と長時間利用の観点からLED式が望ましい)も、アウトドアショップではさまざまなものが売っています。

その他、非常口が利用不可になったり自宅ですつだけの階段が使えず避難用はしこが壊れてしまったりという最悪の事態に使える山岳用50mロープ(結び目を作つて簡易の避難用具に代

筆者が実際に行つてみた某有名アウトドアショップでは、災害時にも使えるような野営用のテントが、価格帯や組立て方式など多様なラインナップで並んでいました。また暖をとったり煮沸消毒したり備蓄食糧を温めたりするために必要なガスコンロも、手のひらサイズのコンパクトなものからスーパーでも売つていようなおなじみのカセットコンロまでさまざまなものがあり、保管場所の都合に応じていろいろ選ぶことができます。

の自然環境の双方に共通しているのは、ときに過酷な状況下でのサバイバルを強いられることです。ですので、アウトドアショップは私たちに身近なサバイバルツールの宝庫なのです。

よく「趣味と実益を兼ねて楽しく仕事しています」というデキル人がいますが、平時にも楽しく危機時にも役立つアウトドアグッズを「趣味と防災を兼ねて」備えておくのがよいでしょう。

筆者が気になった 便利グッズ

アウトドアショップにはさまざまなグッズがありますが、筆者が気になった防災に代用可能なお手頃お手軽なグッズを挙げますと、コンパクト太陽光発電パネル(携帯・スマホの充電、バーベキュースタンドと重ねて収納できる調理器具のクッカーセット(炊き出し)、20徳ツール(サバイバルナイフ等)、「スーパーアディオス」(泥水も浄水できるもの)、伸縮式トレスキングポール(足腰の負傷時の杖、折り畳み式シャベル、傷病者を寝かせて安静を保つのに役立つ折り畳み簡易ベッドなど、普段も楽しく使えて危機時にも心強いものがたくさんあります。

用するため)なども揃つていました。

アウトドアショップに行つて、「これはどんな災害シーンで防災グッズに代用できるかなあ?」と、想像力と創意工夫の姿勢をもって店頭をめぐつてみると、防災のイメージトレーニングにも役立ちますし、疑問があればその場で店員さんに使用法を聞くこともできます。



日本マネジメント総合研究所合同会社 理事長 戸村 智憲